

## グループ報告書

NPO 法人ゆめじろう

### 1.活動を通して

私たちが、サービスラーニング活動で NPO 法人ゆめじろうで活動させて頂いた中で特に印象深く残っているものは 2 つある。

まず一つ目が、9 月 4 日に行われた、ゆめじろう主催の夏祭りである。この夏祭りは、企画の段階から参加させていただき、学生の私たちそれぞれが分担を持って行ったものである。誰もが企画する事に対し初めてだったので、正直不安が大きく、成功するかさえ分からなかった。しかし、何回も会議を繰り返し論議したり、理事長の出口さんを始めとするスタッフの皆さんにフォローして頂き、進めていく事が出来た。また、企画を考えていくだけが活動ではないので、皆で利用者の方と何か作れないかと考え、看板作りなどを計



画し利用者の方と一緒に看板を作り上げることが出来た。また、祭りを出す屋台の試食をしたり、射的などの企画などもおこなわせていただいた。その時に、どう利用者さんと接するかが難しかった。一人一人接し方が違うので、その人に合った接し方を見抜く必要があった。そのために TEECH とは何か、石川先生のアドバイスを基に、ダダ父通信などを参考にし、事前に学習を行ってから臨んだ。現場では、これらのことを読んで学んで、

その利用者さんの特徴をよく観察して見抜いていく技術が要求されてくるということがわかった。



そして当日。当日は、日本福祉大学のボランティアの方にも手伝って頂き、私たちがそれぞれの企画のリーダーとして運営していった。企画している段階では上手く



進んだことも、当日になると設定道理に行かないこともあり、物事を計画する難しさを痛感させられた。しかし、多くの地域の方に来ていただき、交流することが出来た。また、良かったなどの声をかけて頂いたのが嬉しかった。結果として夏祭りを成功させることが出来、本当に良かったと思う。しかし、この成功の裏には多くの人の協力がある。このような大きな行事は、一人で行えるものではなく、近隣の人、地域の人や学校の PTA など多くの人



の協力が必要不可欠である。今回の夏祭りもゆめじろうさんの繋がりが多かったからこそ成功したのだと思う。何に対しても、人との繋がりはとても大切なものだと言うことを学ぶことが出来た。そして地域の人を始め、利用者の方、スタッフの皆さん、多くの人の笑顔を見ることが出来て良かった。

二つ目が、コミュニケーションの難しさについてである。夏祭りを企画していくときにも感じたが、一人一人接し方が違うので、その人に合った接し方を見抜く必要があるとされていた。私たちが感じ方は個々に違うが、専門的なアプローチ方法が要求された為、戸惑い上手くコミュニケーションが取れずに、利用者の方を不安にさせてしまうこともあったと思う。事前にもっともっと学習していれば、このようなことは起こらなかったかもしれない。実際に活動をすることで、現場では、その利用者さんの特徴をよく観察して見抜いていく技術が要求されてくるということがわかった。

## 2. 活動を通して見えてきた地域課題

NPO 法人ゆめじろうは夏祭りを通して、地域にゆめじろうのことをもっと知ってもらい、地域との関わりを活性化しようとしていた。私たちは、地域とのつながりは強い方だと感じていたがスタッフさんに聞いた話では、地域でゆめじろうのことを知っている人はまだまだ少ないそうだ。地域の課題としては、NPO 法人の存在を知ってもらい、地域と密接な関係を築くことだと思う。

NPO 法人は土地を借りたりしており、その税金などお金が余計にかかってしまうという問題がある。そのせいで負担が大きくなってしまいうので、経営にも影響が出てしまっている。この問題も、解決していくにはどうしたらよいか考える必要があると思う。